

四月三日に、越前判官大伴宿禰池主に贈

る霍公鳥の歌、感旧の意に勝へずして懷を述

ぶる一首 并せて短歌

四一七七番

我が背子と 手携はりて 明け来れば 出で立ち
向かひ 夕されば 振り放け見つつ 思ひ延べ
見和ぎし山に 八つ峰には 霞たなびき 谷辺
には 椿花咲き うら悲し 春し過ぐれば ほと
とぎす いやしき鳴きぬ ひとりのみ 聞けばさ
ぶしも 君と我と 隔てて恋ふる 礪波山 飛び
越え行きて 明け立たば 松のさ枝に 夕さらば
月に向かひて あやめぐさ 玉貫くまでに 鳴き
とよめ 安眠寝しめず 君を悩ませ